

＜開倫塾創業45周年(Since1979)記念事業＞

―「辞書」「新聞」「読書」「図書館」を活用し、「読解力」を身に着けよう―

開倫塾

塾長 林明夫

開倫塾は、おかげさまで2024年10月で創業45周年(Since1979)を迎えます。

＜開倫塾創業45周年(Since1979)記念事業＞として、「辞書教育」「新聞教育(N I E)」「読書教育」「図書館教育」を2024年～2029年までの5か年行い「読解力」を育てます。

Q 1 : 「読解力」とは何ですか。

A : 「読解力」とは、文字・活字はもちろん、画像やA I (人工知能)を含め様々な情報を論理的・分析的に「読み解く力」です。



Q 2 : 「読解力」は役に立つのですか。

A : (1)学校の勉強では教科書や教材などを用います。そこで、教科書を用いて「予習」や「授業」を受け、「復習」をするときに、その内容を「理解」するのに「読解力」は役に立ちます。

(2)先生の授業も、その内容を「理解」するのに「読解力」は必要です。

(3)確認テストや単元テスト、定期テストや実力テスト、模擬試験や入学試験など、すべての「テスト」を受験するときに、問題文や設問を、論理的・分析的に読み解き、正解を導くのに、「読解力」は欠かせません。

○「試験時間内」に問題文や設問を最後まで論理的・分析的に読み解き、正解を導く。そのとき、「読解力」が不足するとどうなるか。テストでよい点数を取り、第一志望校に合格することは難しい。

○このように、「読解力」は、学校の勉強や入学試験に欠かせません。役に立ちます。



Q 3 : 「仕事」や「社会的活動」、「よく生きる」ために「読解力」は必要なのですか。

A : (1)「仕事」とは、「もの」や「サービス」を「お客様」に提供して、お客様の困っていることや問題を解決することです。

(2)また、「社会的活動」とは、社会の課題を知り、それを解決することです。

(3)更には、「よく生きる」には、自分の「したいこと」「できること」「しなければならないこと」を自分の力で探し出し、実行に移すことが大切です。

(4)このように、「仕事」「社会的活動」「よく生きる」ためには、世の中の今までの歴史や今の様子・状態と、これからどのような世の中になるのかを調べ、考えなければなりません。

(5)そのためには「辞書」を用い知っている「ことば」を増やし、「読解力」を身に着け、「新聞」を毎日読み、「読書」をし、様々な情報を自分の力で読み解くことが欠かせません。



Q 4 : では、様々な情報を読み解く「読解力」は、どのように身に着けたらよいのですか。

A : (1) 「辞書」「新聞」「読書」「図書館」に「慣れ親しみ」、「徹底活用」、「学習習慣」とすることが大切。

(2) よくわからない「ことば」に出会ったら、「気持ちが悪い」と考え、必ず、「辞書」で調べる。できれば、「紙の辞書」で調べる。

○ 「辞書」で調べたことは、ノートに「書き写す」。「音読練習」や「書き取り練習」をし、「定着」させる。ことばは力、自分で身に着けている「ことばの数」、「語彙数」は力です。「読解力」には、「ことばの数」「語彙数」が重要です。

(3) 「新聞」を、自宅で毎日読み、「自分で考える力」、「批判的思考能力」を身に着ける。「新聞」を毎日読み続けることで、最新の情報を、速いスピードで正確・分析的に読み解く力、「読解力」が身に着きます。毎日、自宅や職場に配達される「新聞」は、日本の宝物、日本の文化そのものです。しっかりと、毎日読みましょう。

(4) 「読書」とは、「作者・著者とじくうの時空を超えた対話」です。国語だけでなく、学校で学ぶすべての教科書で紹介されている作家や著者の「代表的な作品」の中で、お気に入りの作品を、たとえ1冊でもOKですから、1ページから最後までゆっくりと腰を落ち着けて、一語一語ていねいに「読み解く」。一つの作品を、何回も何回も、できれば、5～6回、繰り返し読み返す。そうすると、「読解力」と同時に、「思慮深さ」「自省心」「省察力」「自分自身を振り返る力」が身に着きます。気に入った作者・著者の代表作は、全部読む。できれば、「全集」で全作品を読む。

(5) そして、「意味調べノート」「新聞切り抜きノート(スクラップ・ブック)」「書き抜き読書ノート」に、辞書で調べたことや気になる新聞記事を切り抜くこと、文書を書き抜くことをおすすめします。

* 「図書館の新聞」は「公共物」ですので、書き写すこと。



Q 5 : 「図書館」も「読解力」を身に着けるのに必要なのですか。

A : (1) その通りです。「学校図書館」「公共図書館」こそ、辞書や新聞・読書に「慣れ親しみ」、「学習習慣」とする絶好の場です。

(2) 学校に行ったら、毎日1回は「学校図書館」に行くこと。

(3) 週や月に何回かは、地域の「公共図書館」に出掛け、活用すること。

(4) 大学に進学したら、毎日何回か「大学図書館」に行き、徹底活用すること。自分の勉強や研究を進めること。



Q 6 : 最後に一言どうぞ。

A : (1) 社会に出たら、いくつかの「公共図書館」を組み合わせ活用。「一生勉強、一生青春」「人生は青天井、一生青天井」の充実した人生を送ることができます。

(2) 「辞書」「新聞」「読書」、そして「図書館」を最大活用して「読解力」を身に着け、充実した「小中高生時代」「大学生時代」「社会に出てからの豊かな人生」をお送りくださいね。

(3) 2024年10月に創業45周年を迎える開倫塾では、「開倫塾創業 45 周年事業」として、創業50周年の2029年10月までの5年間、「辞書・新聞・読書・図書館に慣れ親しみ、『学習習慣』とし『読解力』を身に着けよう」の運動を行います。2024年9月31日までは、その準備期間です。是非、ご参加ください。